

第2学年社会科（地理的分野）学習指導案

日時：平成28年9月26日（月）5校時

場所：盛岡市立見前南中学校 2年4組教室

学級：2年4組 男子19名、女子17名 計36名

授業者：教諭 千葉 孝行

単元名

第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方（東京書籍「新しい社会 地理」）

単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容「(2) 日本の様々な地域のウ日本の諸地域」に該当しており、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、7つの考察を仕方を基にして地域的特色をとらえさせると記されている。

近畿地方は古くから日本の政治や経済の中心となっていた地域である。710年には、奈良に平城京が、794年には、京都に平安京がつくられ計画的に都市が形成されてきた。また、大阪は江戸時代に「天下の台所」と呼ばれ、物流の拠点があった歴史的背景がある。このように歴史的分野で学習してきた内容が地域を特色付ける要素となっており、歴史的背景に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせることが適切であると考えられる。

近畿地方に住む人々のくらしも歴史的な背景に大きく影響を受けている。京都・奈良は世界遺産にも登録され、観光客誘致に一役を買っている。また、大阪の郊外の成り立ちを見てみると、商業都市として発展してきた背景と関係がある。神戸のニュータウンとポートアイランドの開発についても戦後に発生した社会問題を解決するための人々の工夫が関係している。このように考えてみても、歴史的背景に着目して地域的特色を明らかにしていくのに最適な教材と考える。

(2) 生徒の実態

※ はじめに、岩手県学習定着度状況学力調査の結果を分析した自校の実態についての記述がされている。
(県と自校を比較した数値データが含まれているため割愛)

そこで、本単元においては、複数の資料を適切に活用し関連させながら比較検討させるための手立てを講じていく。地図やグラフ、統計、写真などの資料を効果的に活用しながら、資料の読み取りの能力を高める単元構成と授業展開を構築していく。

(3) 指導にあたって

本単元では、近畿地方の地域的特色を動態地誌的な学習の手法を用いながら明らかにしていく。単元をつらぬく学習課題を歴史的な背景に注目して設定し、近畿地方の都市の成り立ちや人々の生活に合わせた都市の変化などについて多様な資料を読み取らせていく。その後、複数資料を関連づけて、多面的・多角的な視点で考察させながら地域的特色をとらえさせる。また、「いわての授業づくり3つの視点※」もふまえ、以下の手立てを講じていく。

① 単元指導計画について

単元をつらぬく学習課題（追究テーマ）を設定することで単元の学習の見通しを持たせる。また、単元内における単位時間の構成を工夫して組み込み、単元を通して学習課題（追究テーマ）の設定から振り返りまでの流れを適切に構成する。

② 視点1「学習の見通し」について

単元のみならず単位時間毎においても学習課題を明確に設定し、問題解決的な学習を常に展開することで、学習プロセスを理解させ学び方を身に付けさせる。

③ 視点2「学習課題を解決するための学習活動」について

個人での活動とグループでの活動を効果的に取り入れ、協同的な学習を通して学んだ内容を個人の学びの深まりや広がりにつなげていく活動ができる学習展開を工夫する。

④ 視点3「学習の振り返り」について

授業を通してわかったこと、できるようになったことを自分の言葉で説明させるために、単位時間毎に振り返る場面を設定し、生徒自身が学習の成果を実感できるよう工夫する。

※岩手県教育委員会より平成26年11月発行のリーフレット「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」において、学力との相関関係が見られる授業の要素を「いわての授業づくり3つの視点」に位置付け、その3つの視点を「視点1 学習の見通し」「視点2 学習課題を解決するための学習活動」「視点3 学習の振り返り」とし、それらを授業において展開させることで、確かな学びと豊かな学びを実現させようとするものである。

3 単元の指導計画

(1) 目標

近畿地方は、過去に政治や経済の中心地であり、これらを背景にして都市が発展したことを資料などを使って調べ、その後も人々の生活に合わせて都市が変化し続けていることに気づくことができる。

(2) 評価規準

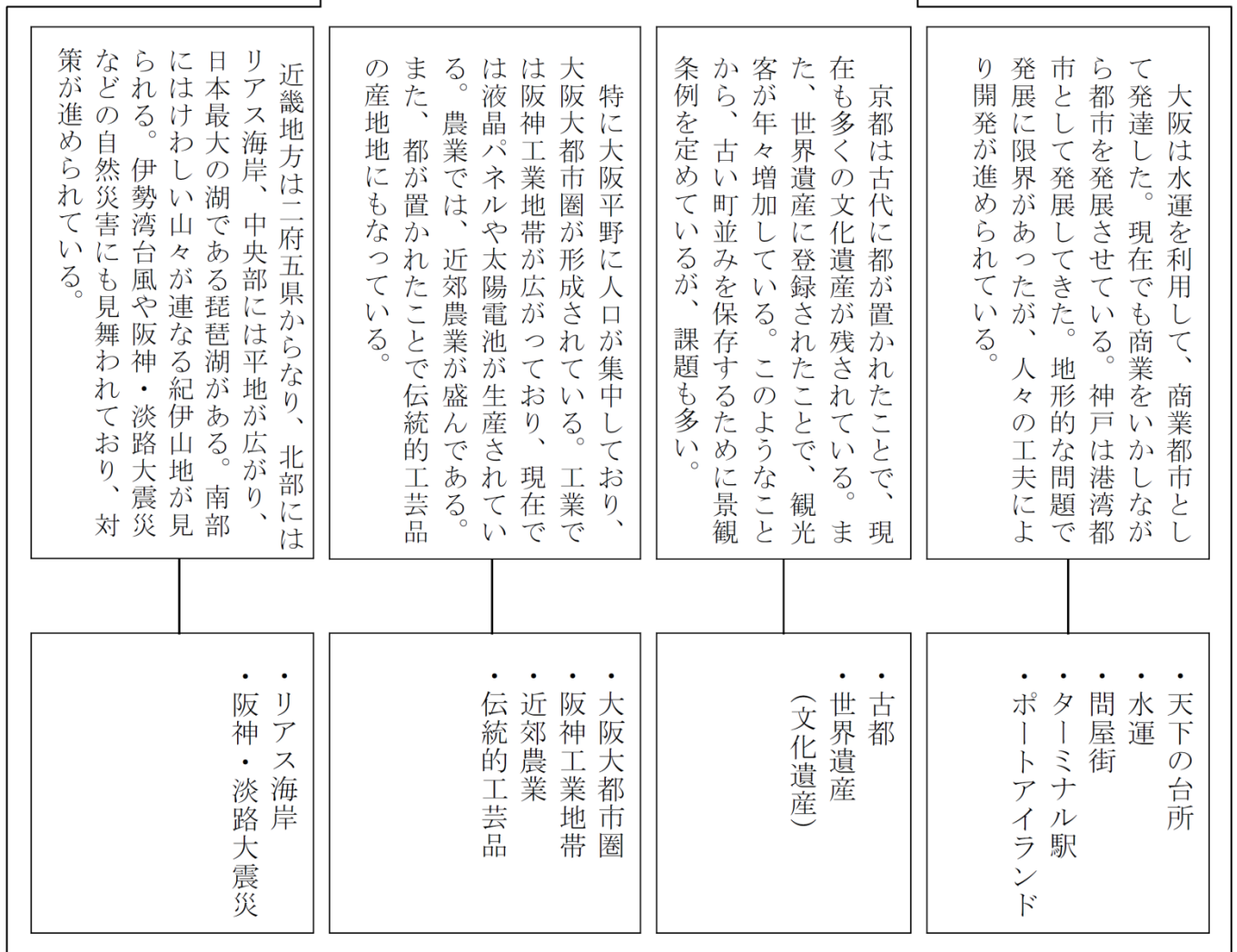
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
近畿地方について、自然環境や人口の分布、産業の面から意欲的に追究し、近畿地方にくらす人々の生活の舞台や営みに対する関心を高めようとしている。	近畿地方の各都市の成り立ちを歴史的な背景から捉え、現在に生きる人々のくらしを多面的・多角的に考察し、課題や工夫を自分の言葉で適切に表現している。	近畿地方にある都市は、過去に政治や経済の中心が置かれたことで発展しており、現在においても人々の生活に合わせて変化し続けていることを図表にまとめている。	近畿地方にある都市が現在においても人々の生活に合わせて変化し続けていることを理解し、その知識を身に付けている。

(3) 知識の構造図

【中心概念】(考察において中核となる内容)

近畿地方にある都市は、過去に政治や経済の中心が置かれたことで発展してきた。現在においても、人々の生活に合わせて変化を続けている。

【基本要素】(知識と単位時間のまとめ)



(4) 単元の指導計画

時	学習内容	ねらい	主な学習活動・内容	評価規準
1	近畿地方をながめて① ・近畿地方の生活の舞台	近畿地方について、自然環境の面から調べ、そこに住む人々の生活の舞台に関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の自然環境について知っていることや既習事項を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">近畿地方の自然環境には、どのような特色が見られるのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の地形や雨温図、航空写真を読み取り、それを関連づけて考察し、近畿地方の自然環境の特色を明らかにする。 	【関】近畿地方について、自然環境の面から意欲的に追究し、そこに住む人々の生活の舞台に対する関心を高めようとしている。
2	近畿地方をながめて② ・近畿地方の人々の営み	近畿地方について、人口・産業の面から調べ、そこに住む人々の生活の営みに関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の自然環境について知っていることや既習事項を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">近畿地方の人口や産業には、どのような特色が見られるのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の人口分布や産業の特色を示すグラフや写真を読み取り、それを関連づけて考察し、近畿地方の人口や産業の特色を明らかにする。 単元をつらぬく追究テーマを設定する。 	【関】近畿地方について、人口・産業の面から意欲的に追究し、そこに住む人々の生活の営みに対する関心を高めようとしている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【追究テーマ】(単元をつらぬく学習課題)</p> <p>近畿地方にある都市は、どのようにしてできたのだろう。また、現在、その都市でくらしている人々は、その都市の特徴をどのようにいかにしながら生活しているのだろう。</p> </div>				
本時	歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし① ・古都の成り立ちと現在	歴史的な町並みを保存することで観光にいかそうとしているが、課題も多く残っているというこを資料の読み取りや複数資料を関連づけて考察させ、自らの言葉でまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 京都に世界遺産が多い理由について、歴史的背景から捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">現在、京都でくらしている人々は、京都の特徴をどのようにいかにしながら生活しているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的な町並みを保存していこうとする取組を多角的に考察する。 	【思】歴史的な町並みを保存するための取組を多角的に考察し、保存について適切に表現している。
	歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし② ・都市と郊外の成り立ち	かつて水運を利用して商業を发展させてきたが、現在では、鉄道を利用することによって人や物の流れを生み出し、商業にいかそうとしているというこを資料の読み取りや複数資料を関連づけて考察させ、自らの言葉でまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 大阪が商業都市として発展した理由について、歴史的背景から捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">現在、大阪でくらしている人々は、大阪の特徴をどのようにいかにしながら生活しているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 大阪の郊外の成り立ちを商業の面から考察する。 	【思】大阪や神戸の郊外の成り立ちについて、多面的に考察したり、社会問題を解決したりするための人々の工夫を自らの言葉で適切に表現している。
	歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし③ ・現代に開発されたニュータウン	港湾都市として発展してきたが、その発展に限界があり、人々の工夫によって新しい都市が作られたことを資料の読み取りや複数資料を関連づけて考察させ、自らの言葉でまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 神戸が港湾都市として発展した理由について、歴史的背景から捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">現在、神戸でくらしている人々は、神戸の特徴をどのようにいかにしながら生活しているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 神戸の郊外の成り立ちを社会問題の面から考察する。 	
5	単元のまとめ ・近畿地方の学習を振り返って	都市の歴史的な背景と現在に生きる人々の暮らしについてまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">それぞれの都市の成り立ちと、都市の特徴をどのようにいかにしているのかをまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 追究テーマに対する答えを表に記述してまとめる。 	<p>【技】これまで学んできたことを基に、近畿地方の地域的特色について図表にまとめている。</p> <p>【知】これまで行ってきた考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。</p>

4 本時の指導

(1) 本時の目標

古都に住む人々は、歴史的な町並みを保存することで観光に活かいかそうとしている。また、保存についての課題が多く残っており、解決していかなければならない。このことについて、資料の読み取りや複数資料を関連づけて考察させ、自らの言葉でまとめさせる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準（概ね満足できる状況B）	努力を要する生徒への手立て
社会的な思考・判断・表現	生徒のノート記述の中に「京都は、古代に計画的につくられた都（古都）で、古くからのお寺などを大切に保存し、観光資源としていかしたり、世界遺産として登録されたりしている。しかし、保存するための課題も多く残されている。」というような記述が見られる。	記述に必要なキーワードが板書の中にあることを伝え、どのキーワードが使えるようか考えさせる。

(3) 本時の指導構想

- ① 視点1「学習の見通し」に関わって
学習課題を「現在、京都でくらしている人々は、京都の特徴をどのようにいかしながら生活しているのだろう」とし、これについて課題解決を図る授業を展開したい。また、予想を立て、それを検証し、解決していくという形をとりながら、本時の到達点が見通せるような授業を展開したい。
- ② 視点2「学習課題を解決するための学習活動」に関わって
学習の形態を個人（パーソナルワーク）、小集団（グループワーク）、学級（クラスワーク）とし、学習活動に合わせて使い分ける。資料の読み取りを個人で行わせ、それをもとに複数資料の関連性について小集団で協働的な学びを行う。各集団から出た意見を集約し、学級全体でまとめ、課題解決を図っていく。
- ③ 視点3「学習の振り返り」に関わって
学習課題に対する予想とまとめの相違点や協働的な学び（グループワーク）を通して感じたことを例文をもとに記述させる。本時の学習を通して、生徒自ら学習の深まりや協働的な学びの良さを感じる取るようにさせる。
- ④ 言語活動の位置付け
導入では、3つの資料から読み取れることをもとにして、学習課題を設定させる。展開では、3つの資料から読み取れることを関連づけて検証を行い、課題解決を図っていく。また、学習課題についてのまとめでは、板書の中から本時の学習で重要となるキーワードをもとにし、自らの言葉でまとめさせる。このような場面を言語活動と位置付ける。

(4) 本時の展開（別紙参照）

本時の展開

段階	学習活動と内容 【】 基礎的な用語	指導上の留意点	○資料など ◇評価
導入 5分	1 単元を貫く課題を確認する。 2 学習課題を設定する。 ・学習課題を設定する。 【世界遺産（文化遺産）】 【古都】	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産である中尊寺と金閣寺の写真，平泉と京都の世界遺産の場所を示す地図から，京都の構成遺産の多さに気づかせる。 京都に世界遺産が多い理由を歴史的背景からつかませ，過去に政治の中心があり，計画的につくられた都だったことを想起させる。 単元の追究テーマにある文例を参考にしながら，学習課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中尊寺，平泉の世界遺産の所在地 ○金閣寺，京都の世界遺産の所在地 ○現在の京都の地形図
	現在，京都でくらしている人々は，京都の特徴をどのようにいかしながら生活しているのだろう。		
展開 35分	3 課題に対する予想を立てる。 4 課題解決の見通しを持つ。 5 資料からわかることを読み取り，予想について検証する。 6 別の資料からわかることを読み取り，多角的に検証する。 7 資料をもとにクラス全体で確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> * パーソナルワーク <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識して書かせる。 ・一言でもいいので，全員に予想を立てさせる。 ・生徒の予想 「昔の建物をいかして観光客をたくさん呼ぼうとしている」，「世界遺産がある都市として世界へアピールしようとしている」など ・本当に観光客が増えているのかを資料をもとに調べることを確認する。 * クラスワーク <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料からどのようなことが読み取れるのかをそれぞれ記入させる。 ・「京都の観光客数の推移」を示す3つの資料を順番に提示し，世界遺産登録を契機に年々増加していることに気づかせる。 ・課題について多角的に考えて行くことを伝える。 * パーソナルワーク <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料から読み取れることを個人で記入させる * グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・個人で読み取った情報をグループの協働的な学びによって関連付けさせる。 * クラスワーク <ul style="list-style-type: none"> ・各グループから出た意見を集約し，京都に住む人々の様子を確認する。 ・「双ヶ岡開発問題」からは，古都保存法の成立のきっかけを読み取らせる。 ・「景観を守るための規制と規制に対する意見」からは，立場によっては景観を保護する政策に反対意見があることを読み取らせる。 ・自分たちの考えが正しいかどうか，教科書をもとに確かめる。 ・ここまで学習してきた内容をキーワードで確認し，学習課題に対する答えを自分の言葉でまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○京都の観光客数の推移 <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録前後 ・その後 ・昨年 ○双ヶ岡開発問題 ○景観を守るための規制と規制に対する意見 ○教科書本文
	京都は，古代に計画的につくられた都（古都）で，古くからのお寺などを大切に保存し，観光資源としていかしたり，世界遺産として登録されたりしている。しかし，保存するための課題も多く残されている。		
35分			◇上記のような記述をしているか評価する。【思】（ノート）
終末 10分	8 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を通しての気づきや変容を，予想との比較などをもとにノートに記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【例】 「予想は～だったが，調べてみたら…だとういうことがわかった。」 「予想では，～だったが，グループ活動で他の人の意見を聞いて…に変わった。」 など</p> </div>	
	9 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の他の都市の状況についても調べていくことを伝える。 	